

各 位

一般社団法人 電子情報技術産業協会

## ◆◆新春◆◆ 「電子情報産業の世界生産見通し講演会」 開催のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当協会の諸事業にご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。このたび平成24年度『電子情報産業の世界生産見通し』（赤本）、ならびに注目分野に関する動向調査～ヘルスケア・メディカル、センサ、JEITA センサ・グローバル状況調査～結果についての講演会を下記要領にて開催致します。ご関心をお持ちの各位におかれましては、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

**日 時**：2013年1月16日(水) 14:00～17:00  
【受付開始 13:30】

**場 所**：大手町サンスカイルーム Eホール(24階)  
〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目6番1号  
朝日生命大手町ビル24階  
TEL: (03)3270-3266 (代表)  
◆東京駅日本橋口徒歩1分、地下鉄大手町駅B-6出口徒歩1分

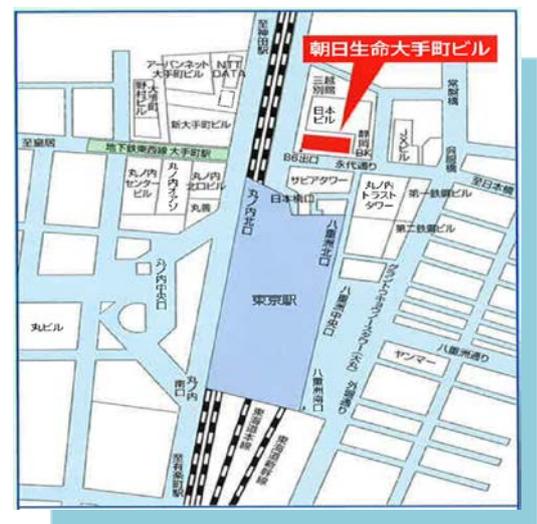
**定 員**：180名(定員に達し次第、受付を締切らせて頂きます。)

**申込締切**：2013年1月11日(金) 【事務局必着】

**参加費**：一 般 18,000円(お一人様につき、税込み、赤本・注目分野報告書付き)  
会員会社 5,000円( 同上 )

- ◆参加者には「電子情報産業の世界生産見通し」（赤本、注目分野別冊付）を一冊進呈致します。
- ◆会員会社には、当協会の会員会社ならびに協力団体（8団体）の会員会社も含まれます。  
※協力団体（8団体）：CIAJ、CIPA、JEMIMA、JHIMA、JIRA、JPCA、NECA、WSTS-JC
- ◆一旦お振込頂いた受講料はご返却できません。代理の方の出席をお願い致します。

**主 催**：一般社団法人 電子情報技術産業協会 （事務局：総合企画部）



## 講演会の概要

2012年の世界経済は、欧州債務問題の長期化により景気後退の危機に直面しております。欧州向け輸出の減少は中国での供給過剰の顕在化に繋がり経済は減速しております。しかしその一方で、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大は、データトラフィック量の増大を加速させ先進諸国では高速通信網の発達を促しています。また、インターネットを介し多様なニーズを取り込んだ新たなサービスや、ソーシャルネットワークサービス（SNS）が認知され広がることで、さらにその裾野は新興諸国へも拡大しつつあります。本調査では、それら市場の変化とIT融合への期待が見てとれます。

本講演会では、調査結果の全体総括と各分野のトピックスとなる製品動向について報告いたします。

また、本年は、ITとの融合が期待されている「ヘルスケア・メディカル」と日本のキーデバイスとして成長著しい「センサ」の2分野に注目し世界需要動向を調査いたしました。中でもセンサについては「JEITAセンサ・グローバル状況調査」を実施しましたので、併せて報告致します。

### プログラム:

<司会> 調査統計委員会副委員長 種子田 暁夫 氏 《日本電気株式会社》

- 14:00 開会の挨拶  
一般社団法人電子情報技術産業協会常務理事 長谷川 英 一
- 14:10~14:30 電子情報産業の世界生産見通しの活動と全体総括  
調査統計委員会委員長 梶 達 雄 氏 《ソニー株式会社》
- 14:30~14:45 スマートフォン、タブレット端末、パソコンの動向  
調査統計委員会委員 北 本 佳 樹 氏 《パナソニック株式会社》
- 14:45~15:00 プリンタ、イメージスキャナの動向  
イメージスキャナ専門委員会委員長  
佐久間 健 一 氏 《キヤノン株式会社》
- 15:00~15:15 電子部品の動向  
電子部品部会統計予測委員会  
統計WG主査 松 原 邦 晴 氏 《アルプス電気株式会社》
- 15:15~15:30 ITソリューション・サービスの動向  
ソリューションサービス事業委員会委員  
込 宮 信 治 氏 《沖電気工業株式会社》

—— 休憩（15分） ——

<注目分野に関する動向調査>

- 15:45~16:05 調査概要とJEITAセンサ・グローバル状況調査結果について  
調査統計委員会副委員長 平 川 秀 樹 氏 《株式会社東芝》
- 16:05~16:55 ヘルスケア・メディカル、センサの世界需要2020年までの見通し  
株式会社シード・プランニング 主任研究員 唐 弓 昇 平 氏
- 16:55~17:00 質疑応答

**申込要領：**

◆参加費のお支払いは、請求書方式にてお願いしております。

- ① 参加申込書に所定事項をご記入の上、電子メールに本申込書ファイルを添付し、下記お申込先までお送りください。電子メールでの送付が難しい場合には、FAXでのお申込みも受け付けております。
- ② 後日、請求書と受付番号を事務局より郵送させていただきます。
- ③ 指定の振込口座に**必ず事前に受講料をお振込**ください。(請求書方式につきJEITAとしての領収書は発行致しませんので予めご了承ください。)
- ④ 講演会当日は、会場受付にて受付番号をご提示ください。

**【受講料振込先】**

金融機関名	口座名	口座番号
三井住友銀行 丸ノ内支店(店番号245)	一般社団法人電子情報技術産業協会 <small>こうえんかい</small> 講演会 <small>くちよん</small> 〇4	普通預金 6678728

◆お振込は講演会当日までをお願い致します。なお、振込手数料は各自ご負担ください。

◆お振込の際には、入金確認の手續き上、請求書に記載の受付番号(4桁)を必ず振込依頼人欄の会社名の前にご記入願います。なお、受付番号、会社名に加え出来るだけ個人名の記入もお願い致します。

(例: 1001 株式会社電子情報 電子情報太郎)

**お申込先:**

E-mail: [seminar1@jeita.or.jp](mailto:seminar1@jeita.or.jp)

一般社団法人 電子情報技術産業協会 総合企画部

(お申込みに関するお問い合わせ：早川) (講演会内容に関するお問い合わせ：根岸、高瀬)

電話 03-5218-1052 FAX 03-5218-1071

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル

----- 年 月 日 -----

[seminar1@jeita.or.jp](mailto:seminar1@jeita.or.jp) FAX 03-5218-1071

一般社団法人 電子情報技術産業協会 総合企画部 御中

**新春・電子情報産業の世界生産見通し講演会（1/16）参加申込書**

貴社名	
ご芳名	
所属・役職	
住所	〒
電話番号	
E-mail	
参加区分	<input type="checkbox"/> 一般 / <input type="checkbox"/> JEITA 会員 / <input type="checkbox"/> 協力団体会員 (団体名: )
受付番号	※記入不要

※申込書に記載された個人情報は、請求書送付等の当該講演会に関する連絡のみに使用させていただきます。

※請求書および受付番号は上記の受講者宛に郵送でお届け致します。

※事務処理の都合上、できるだけ本申込書を電子メールに添付する方法にてお申し込みください。

※協力団体（8 団体）：CIAJ、CIPA、JEMIMA、JHIMA、JIRA、JPCA、NECA、WSTS-JC

## 報告書のご案内

赤本に関連する書籍をご紹介します。当協会サービスセンター(4階)にて頒布しております。JEITA ホームページ/刊行物コーナーからもお申し込みいただけます。

<http://www.jeita.or.jp/japanese/public/>

### 電子情報産業の世界生産見通し(赤本)

2012年12月 JEITA 発行 A4版40ページ ※A4版8ページ「注目分野に関する動向調査」付き

編集：総合政策部会/調査統計委員会/世界生産見通しWG

定価：3,000円、会員価格：2,000円

電子情報産業の世界生産見通し調査結果を金額ベースでまとめた冊子。世界の中で  
の日系企業の位置づけ、国内生産の状況を分かりやすく解説した。

**総論：世界生産、日系企業生産、国内生産、日系シェア、地域別生産・需要ウェイト**

**各論：電子情報産業を代表する18品目についての分析**

薄型テレビ、映像記録再生機器、撮像機器、カーAVC機器、  
携帯電話、サーバ・ストレージ、パソコン、液晶モニタ、磁気ディスク装置、  
プリンタ、イメージスキャナ/OCR、電子タブレット端末、電気計測器、  
医用電子機器、電子部品、ディスプレイデバイス、半導体、  
ITソリューション・サービス（以上18品目）

### 注目分野に関する動向調査

～ヘルスケア・メディカル、センサ、JEITA センサ・グローバル状況調査～

2012年12月 JEITA 発行 A4版8ページ

編集：総合政策部会/調査統計委員会/注目分野TF

一般価格：2,000円、会員価格：1,000円

電子情報産業の世界生産見通し調査の一環として、IT・エレクトロニクスにおける注目分  
野に関する調査を開始して今年は3回目の調査となる。

今回は、ITとの融合が期待されている「ヘルスケア・メディカル」と日本のキーデバイスと  
して成長著しい「センサ」について、世界需要を把握するとともに2020年までの将来展望  
をデータで明らかにした。また、今回は、その基礎として、センサ実績の時系列的な推移を  
把握するため「JEITA センサ・グローバル状況調査」を実施し、会員内外の主要なセンサ企  
業85社から協力を得ることができた。その結果をセンサ世界需要における日系企業の実績  
として使用したので併せて報告する。